



道・今昔

今時、若い世代では使われることはなくなりましたが、我々の年代では道路のことを、よく「きゃど」、あるいは「きゃんど」と言うことがあります。

秋田弁の代表格で、「街道」が訛って「きゃど」になったという説があります。

「かいどう」が「きゃいどう」、「きゃどう」、「きゃど」と変化してきたのでしょうか。何となく時代劇に出てくる土ぼこりが舞う街道を連想させます。

しかし、私の子どもの頃は秋田市などの都市の主要道路や主要国道しか舗装されておらず、秋田市から実家の角館に至る国道46号線は今の大仙市協和から先は未舗装でした。

さらに当時、大衆車にエアコンは付いてなく、暑い時は車のウィンドーを明けて走ることになり、でこぼこの砂利道をガタガタと走る前の車が巻き上げる土埃で車の中は真っ白、頭髪から顔、衣服まで土埃だらけ、実家に着くなり風呂へ直行という具合でした。

また雨の日には、道路のくぼみにたまった泥水が跳ね上がり、洗ったばかりの車は泥だらけ、前の車の跳ねた泥水がフロントガラスに直撃、ワイパーをフル回転させても、前がよく見えない状態になります。

さらには当時の車は、今と違ってマニュアルシフトで車底の各種の装置がむき出しで、砂利道で跳ねた石ころが変速ギアとミッションをつなぐロッドに挟まり、突然ギアシフトができなくなるなど、今では考えられないこともありました。

しかし、車が少ないことやデコボコ砂利道でスピードを出せないことから、意外に事故は少なかったような気がします。

時は進んで現在、高速道路は当たり前、生活道路や農道に至るまで舗装され、逆にSUVでデコボコのオフロードを走るのが楽しみという人も多くなりました。

しかし、昔はみんなオフロード、しかも体中埃だらけ泥だらけ、冬は普通タイヤにチェーン装着、昔の方が一般走行でもはるかに「ワイルドだぜー」と言いたくなります。

今は変速ギアはオートマチック、エアコンは当たり前、ナビにステレオに至れり尽くせり、愛車を手放すまで一度も触れたことのないスイッチや、使ったことのない、というか使い方が解らない装備が山ほど付いています。

先日は日本海沿岸自動車道「鷹巣 IC」から「大館能代空港 IC」までが開通し、本県内の高速道路網も近い時期の全線開通を見通せるようになりました。

本格的な高速交通時代、産業振興、物流、観光、救急医療など多方面での大きな効果が期待されるとともに、県民がいかにかこれを有効に活用するかが大切になります。

ただし、「便利」、「快適」を享受しながらも、くれぐれも安全運転を！